

繪本豊臣勲功記

二編

十

へ遠13
2209
20



門入遠 13
 番 2209
 卷 20

繪本豊臣勲功記二編拾之卷

目録

三之雲影左衛門邊視音寺

属 信長入城

本下使堀尾或種村上坂

属 池田勇戦

豊臣本記二編



衛生賢秀振勇柳柴田勢

属 前田使説

前田利家卒名又左衛門

属 江別勅座

繪本豊臣勲功記二編卷之十

櫻澤堂山 編輯

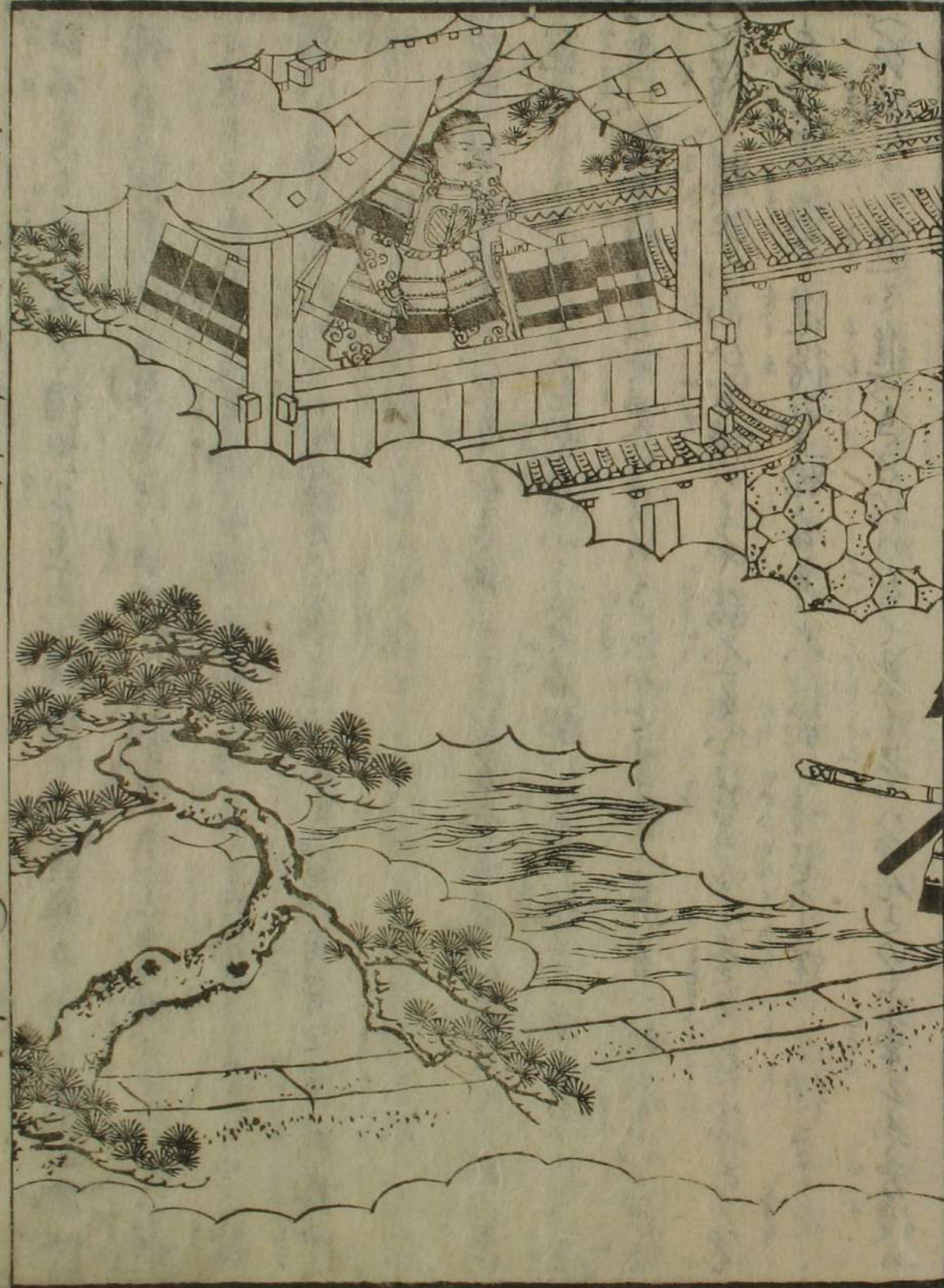


之雲新左衛門邊親音寺 属 信長入城
文武門の繁榮する也義氣と花と仁心と實とを之雲新左衛門尉晴
友僅小一歩を留得て主人の恥辱を明さるるを他見聞してあまを
たて然りと小織田殿の諸軍小指揮あり再び城を攻むるを時小本中謀
まざるやうに小信長小言状せし此の如く作あり又將の落て作とも依る本の家が動ら
らぬに恥とも知る義とも思ひを形小止り一箭射く武士らしく死するを謂と
ん詞の邊功小管人語づくも激守一軍を聲力攻小一多るが自官の損を
名將の名を満さんことうも朽慙ふい惟とを此小信長小評任せあさる健
の命を傷えし城を兼受重きと云はさる小信長もよく謀らる宣ひ

藤吉弟只一騎城際小馬と、兼信志守る。小残と止る侍士衆、東指つて
 一言ありと傳ふ。所て之を雲形たす。尉、この言を以て、後、築樓の上、出
 海軍小やと訊くと、者吉弟、式禮あり。霜臺、所、又、子、や、既、小、石、形、へ、退、散、せ
 らしむ。一、艦、小、美、知、ひ、と、た、た、然、が、當、城、に、殘、ら、せ、ら、れ、る。誰、人、か、て、渡、ら、せ、ら
 らしむ。當、公、方、家、の、所、懸、を、被、り、難、向、て、催、つ、雲、形、の、像、を、大、軍、あり、
 ま、と、此、も、怖、ま、と、て、防、戦、せ、ら、る。忠、信、義、勇、感、を、小、將、余、り、あり、任、使
 る、人、の、為、と、思、ふ、ま、と、ん、小、の、名、を、方、の、お、が、一、ち、以、の、外、お、り、し、り、な、じ、お、
 違、は、ら、る、ま、と、ん、新、公、方、家、の、所、陣、へ、對、一、を、引、こ、の、思、一、と、小、退、城
 せ、ら、し、む、お、り、あ、ら、せ、ら、れ、る。そ、ま、小、漸、松、の、力、楯、と、殘、り、し、り、至、ら、不、得、ま、君、小、朝、
 て、不、忠、と、の、い、ふ、く。夫、小、朝、を、て、不、義、と、の、い、ふ、く。一、然、量、の、事、を、辨、へ、ら、れ、
 各、を、違、は、ら、る、ま、の、い、ふ、ま、と、ん、然、ら、ば、作、り、木、の、武、士、あ、ら、せ、ら、れ、と、此、を、の、海、軍、人、事、

の、城、中、小、憑、信、あり、の、い、げ、小、舉、止、お、や、當、方、の、大、軍、一、團、小、推、ま、ら、ん、お、り、
 取、ら、不、足、ら、ら、る、事、お、ん、ぬ、ま、と、可、惜、勇、士、と、私、軍、中、小、徒、死、を、ん、こ、の、慄、こ
 小、斯、の、重、收、ら、る、り、遠、理、と、分、別、あ、ら、え、此、お、く、死、ん、命、を、保、ち、石、形、の、城、へ
 為、信、お、ん、主、君、の、先、途、を、顧、依、こ、と、末、代、ま、た、の、忠、義、を、ま、と、重、一、所、せ、
 朝、の、節、々、身、を、割、り、如、く、お、ま、い、つ、と、雲、が、勇、氣、も、勿、心、を、け、木、ト、小、あ、ら、つ、て
 重、を、ま、ら、つ、ま、い、の、角、の、侍、士、お、り、と、雲、形、た、す、尉、時、友、と、の、い、ふ、を、者、小、い、顧、り、
 知、り、ゆ、さ、り、如、く、入、道、父、子、當、城、退、去、つ、ら、ら、る。ま、あ、き、跡、お、り、催、つ、も、仇、衆、任
 別、つ、遠、城、と、徒、小、棄、作、こ、と、近、東、殘、念、小、存、む、る、あ、ま、り、落、止、つ、て、作、と
 ころ、へ、漸、光、隊、の、衆、理、不、盡、小、を、流、と、放、蕩、ら、し、催、ゆ、へ、是、非、を、く、一、幕、つ、つ
 ち、の、ま、ら、ん、命、け、如、く、ま、君、を、へ、違、去、つ、せ、一、當、城、お、り、小、子、何、量、な、ら、ま、と、
 及、不、ぬ、事、小、催、ま、く、速、小、退、去、つ、ら、ら、ん、然、ら、ば、三、角、家、代、の、任、居、お、り、有

秀吉三雲新左衛門を解く
観音寺山の城を退く



能くも。彼此多く作ゆへそをらと掃除し河邊與のふらん。要所河邊
 縁ありては。怖る存とと棄せり。本下ありとも。河事あり。心静
 小退をあると。言てそを。信本陣小集り。信長へ言出た。こを。小よりて。諸
 隊へ下。陣あり。攻門く。は。緩ゆる。ま。こ。雲影。た。集り。自。言。と。車。列。陣。中
 残る。ま。掃。清。ゆ。昨。夜。主。君。の。取。落。せ。し。重。寶。も。と。拾。收。め。然。し。て。本。下
 の。辭。へ。使。士。と。遣。し。し。只。今。を。ま。拂。ふ。と。言。而。圍。の。門。を。閉。り。せ。て。新。た。集。り
 北。門。より。五。百。余。人。と。前後。ふ。こ。せ。石。部。と。當。て。陣。と。退。を。み。こ。こ。そ。そ
 不行。強。小。雄。々。あ。む。と。見。し。う。り。り。然。や。ど。小。本。下。秀。吉。へ。新。た。集。り。使。士
 と。得。て。魁。軍。小。向。ひ。言。儀。い。や。騎。入。と。言。る。小。是。又。謀。あ。や。あ。り。ん
 と。以。前。小。懲。て。進。得。た。藤。吉。將。大。小。笑。ひ。言。是。下。達。の。未。練。さ。よ。退。く
 づ。此。响。は。く。進。り。進。り。ま。は。い。お。て。退。く。是。は。なん。と。い。ふ。事。と。や。言。儀。へ

些も怖るものなり。先く。小。強。く。ま。よ。と。秀。吉。正。魁。小。強。指。バ。本。下。部。一。千
 余。人。隊。伍。物。々。と。講。提。り。秀。吉。城。中。を。巡。見。し。更。小。強。む。不。り。ん
 使。所。入。城。儀。と。使。士。と。馳。せ。ま。り。信。長。將。入。城。ま。ま。と。法。將
 患。く。河。邊。小。集。り。勝。軍。と。賞。し。奉。り。法。心。軍。議。を。定。め。ら。し。小。本。下。秀。吉。將
 言。出。し。て。ま。の。當。眼。前。あり。守。山。日。野。へ。奔。向。然。る。く。備。あり。中。に。就
 て。日。野。の。浦。生。右。兵。衛。大。守。賞。秀。へ。當。國。を。取。の。勇。士。と。い。ひ。忠。義。小。強。こ。り
 武。門。を。説。客。と。し。て。理。解。を。説。し。ぬ。渠。を。陣。集。る。と。言。て。將。依。小。下
 て。大。事。あり。備。又。攻。ま。を。至。らん。小。容易。小。落。地。あり。と。言。ふ。と。飾。つ。ま。共
 左。小。右。小。一。攻。せ。め。て。後。の。事。と。ま。分。配。と。言。ひ。日。野。へ。柴。田。將。持。へ。寄
 勝。家。依。り。内。務。助。成。政。輝。を。倉。庫。頭。頼。隆。の。之。人。を。將。と。し。一。百。余。騎
 と。當。向。り。守。山。城。へ。本。下。秀。吉。池。田。信。繼。支。將。小。五。十。余。騎。と。言。し。割。り。を

十二日の己の刻をうり小親善寺山を奪馬なり。吉山日野の支城二道
こころまで推進せり

本下使堀尾惑種村上坂 属 池田勇戦

酒河の流水は流るとも豊君の智いのをう 謁さん 脱小本下君命を頂小義を
池田と共小守山城へ向くをうるが程近くあるまう小隊也と調へ馬を体
はせ城の曉蹊と聞ひらる小遠守山の佐々木の旗中 種村大義大輔が居
城ある小上坂之馬助を加へ一千余騎小守城せり然る小儀田塔十一日
より當國へ破て投十二日の朝も其作和田山を攻臨し 昭教の
親善寺も保澤を兼復父子石部へ落て信長さまへ投代りしう 注伸
梯の藪を挽が如し 然るも大将種村の業も従たる色とらんせと今日
は定て敵推来らん 防戦法準備せよとて馬を挽と隙際を配らる

大藏大輔諸士小義を説く 重き事なり 凡勇士の本意はこと小勢をりて
大敵小當と名義とせる 朝は今小親善の事とぞうし 唯苗も江南小大將の
列小加たりとて小儀田家の大軍を引受て軍せん 俸本望ありとて人界小
けと託する事とて 終小死する事やあふ死 武士たる輩の用は戦場小
馳向ひ 其々々々死してこそ潔よけき 各々達も乃節と守山城を抗ふし
戦死せんこと定めて當世の因縁ありし 堪たぬ少と量りて死する人等と
うがや小奉動さへ死しての後の名こそ惜はる 臆病神小勾引て従合生延
つうとても予軍方軍とて長き事なり 努々末練の擡りて 多くの人不爾
背指と指してあるまう 多く精神せよと雷むる 朝小上坂もこの小將なり
小より 今もを臆せし 軍卒もたぢまらぬ勇を増し 敵小向ては一足も退か
引くと 従合名守門を固めたり 然るも本下秀吉の此不承を得と現徹し

池田小対と謂けり。當城を守り種村も。然る勇將とおもひし。是れは
 一軍と多くは自軍を傷ふべし。仍て小一計とす。下出せり。丹も
 城の守るも。將種村が心を嘗び死せり。城を守り。あまのむ。容易
 棄ふべからず。只も勇氣の強。然るも。謀を行ふべし。まづ。韓古ある者。と
 遣てし。降参の詞を勅せん。越の大小。就と侮。自軍の諸將。勝不
 驕。急慢の体と志。中。染依。あらむ。偽障り。夜。殿。ごとく。一。播。自
 軍を助。り。と。思。ふ。べし。其。作。業。小。臨。入。を。施。す。計。策。あり。その。計。策
 の。新。あり。と。謀。所。世。然。く。池。田。尾。成。助。と。呼。出。し。其。方。登。り。城。中。小
 小。あり。遠。城。を。も。ち。攻。取。べし。男。を。し。こ。達。回。き。と。教。諭。し。て。言。は。せ。り。
 守。山。城。へ。遣。り。し。けり。原。兼。成。助。は。人。品。好。賸。亦。古。絶。倫。あり。は。こ。の。擧。げ。小

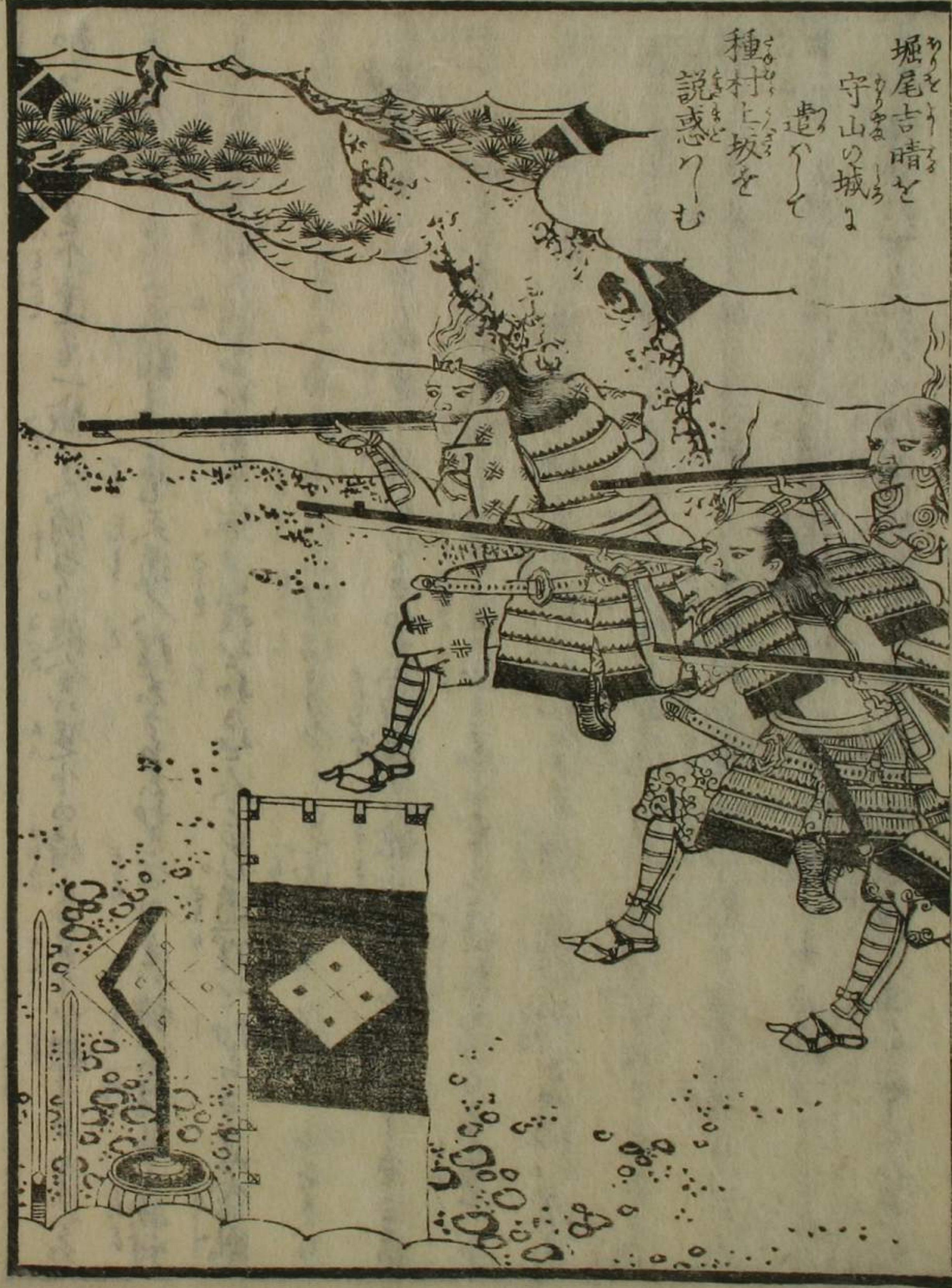
當。ま。る。者。あり。木。下。池。田。の。堀。尾。を。城。中。遣。り。七。百。五。十。の。兵。士。と。曰。度。外。あり。
 此。處。彼。處。小。部。散。り。更。小。心。の。体。を。見。せ。し。を。執。事。上。を。勅。し。堀。尾。成。助。の
 面。面。小。對。し。是。の。進。参。の。使。士。あり。大。將。小。京。と。て。此。詞。假。し。門。を。開。ひ。て。援
 ら。ま。し。と。志。高。ら。り。小。味。と。り。遠。向。種。村。兵。士。小。指。揮。し。寨。據。小。登。り。て。口
 を。開。け。し。言。情。より。小。不。氣。を。乃。高。使。節。の。役。を。彼。に。此。小。來。る。當。城
 の。た。免。を。思。ふ。ゆ。へ。あ。ま。の。口。状。を。授。け。し。陪。言。の。ゆ。ひ。致。し。使。中。へ。送
 ち。ま。し。使。士。の。乃。節。一。人。あり。又。と。さ。へ。懼。怖。を。し。門。を。内。へ。入。ら。し。め。ぬ。將。乃
 膽。病。よく。知。ま。り。願。量。の。心。小。て。あり。あ。ら。九。百。餘。小。十。倍。と。り。勇。士。の。千。餘。人
 の。軍。勢。小。他。を。射。揚。せ。ら。る。ま。し。先。速。小。甲。を。強。く。降。参。し。向。て。命。を。助。る。を。主。へ
 外。面。小。身。の。勇。猛。の。個。々。と。あり。し。る。小。武。士。甲。裝。の。分。心。や。と。大。口。を。張。り。て
 お。よ。り。併。の。兵。士。と。言。は。り。種。村。小。秋。と。言。は。れ。ば。大。藏。大。小。傍。り。懼。れ。使。士。の。言。條

うを然バ呼投詞棒と所人と後助と城中へ送らる。吉晴が身寸甲を帯を纏て
 こゝろ密座つた種村上飯小對て謂やう遠道信長當國へ殿投らん事と
 何とぞ思つ境を侵し國を百人が為すあらむ。新公方家義昭君母君足元の
 怨敵とて好松永と退避し。天下の軌道は法も太平の代とてあふふ事
 漸本意不て遠く濃河へ漸動座しし。層あらねとも信長を別へ沖相
 あらふより馬矢獲る身的面目と一義小體をせし出馬せらる。新公方家乃
 先陣とあまおらせしより日日月も地小落るるをせし君を執せし逆城
 小合陣を城を築作和田山より小巖へ守まはして當之時の
 落地あはる。觀音寺の本城も先來公方小忠をくあはるまおらせし
 と恥くとも亦忍りし小城を棄て逃るる是ハ信長の威光小あらむ
 義兵といふ名の別くと君小逆に君を執せし自己の罪と自己と責むと

知らむとて是下達も一城の大將より。後合は是下の侍士が是下を殺しらんとい
 ちく殺せしといふも謂まじ。是天道人理をらまむるもあまは誰か信長小敵對
 して逆居合歸の汚名を取らんや。道理を知ると人といひ道理を知らざるを合對
 といふ是下が自のふ角之道理小敵體力ありとて城を棄て連りしとて是ら
 の遠慮も一かを是下倅死せしめて當城小龍兵を事法ありしとてこの
 心と知るどして良臣といふふまあり。是の心もあらむとて徒死するこそ
 まは然れば日野の蒲生を物免を信心と知るとも彼ハ城を用て石を
 二重とまといふるぞし。方僅是下倅を止むるの罪と重ぬこととて
 此も是の爲少ある事。然ども罪をせし逆居合とて殺さん事の憐れさ小大
 軍城下小判をあらう方倅や同城の油法ありと戦をせし侍つこととて
 小善信ありとて。枉に使弟を別らるる。備思急儀く事と重らひは罪



堀尾吉晴を
守山の城に
遣へし
種村と坂を
説惑りしむ



とも軍を好むるは此方とも詮方なり。只一軍小攻山形さんこと最
 心易うふや。とひと詰氣小深うらうら種村心中小抗銀と生ト。不使
 の色と傍う。上坂見て暮るや。無志の使節をこじける。然るに暫時
 体息したる一統評定しつる後得と返答りや。おげんと謂ふ吉響らち
 黙顔無時の際ハ種村もとと。味々評定するべし。と一室のうちへ投る
 あと山の上坂種村小籠ていさや。方僅進意の様に得るに心大急まり
 是ぞ和田山善作等小勝と重なる小うら意の満一由ぞし新る
 して敵自軍小固地醒ささづき捲せたる。こまのいふと叫け種村撲他
 と堂鳴し。誠小妙なる計略あり。然るに堀尾小返答せんとて再び助也
 招中。余越き一懸志の茶と志のつて柔なり。早速降参つまうし連小
 河陣へ参上さす。是とも城を一千余人へ河原の趣を重きし月日早く

當城は河邊其のふたへ假遠自河統成ささるべし。と町守小堀尾を
 送返りて。吉時早き走返りて。趣を告し。本中堂を相て大小脱ひ
 池田小向ふて重きと。計畧既小成能せ。今宵必は夜撃あるべし。而
 准備のさき准へ自軍の陣中見少の意強し。俤をうき隨分心小
 中影き。自具をたす。今宵を過さ。城を取んと細やう小堀尾
 を傳へまづ本中の陣をのつて一町をうきも後へ標退扱意と小心あり。俤
 小て馬の残らむ鞍を卸し。人の將卒とも小遣盛を脱捨ん。騎を脱
 と滴宴を催し。發小うら解くを見へるを。城中少のと坂種村遠俤
 を着て發するや。進軍の軍勝小請を。城中少のと坂種村遠俤
 発小せん。と返答せしむ。小も實と思ふ。先夜敵を織田武者は
 肝魂を捉搦ん。只今間者のまうを所へ夜討するも滴宴さす。と返



豊臣記二編卷之十一



豊臣記二編卷之十一

ようち陣をらん少の軍勢の刻に熱戦しく正勝もさく熱戦しくらんその
 刻陣を相争ふと不意小推を斬起す。いふや大軍も一歩小敗を
 せんこと手裡小あり。而く功を建らしと。と指揮する。小をさく陣の
 士を勝得る心地と。就起す。さうしこれ進軍の陣小の陣小の陣小
 諸率小の陣小の陣小の陣小の陣小の陣小の陣小の陣小の陣小の陣小
 して白昼の如く。此下小集めて酒宴をさす。遠目小もよく見入る。唄ひ
 舞ふ。高の懸く。死ことい死戦場といふ。いふ。飲ぶ。けい。言の刻過る。陣小
 かし。いづきの陣も。漸く小笑話の事も。さうして。方儀も。さく。小勝どる。
 燎の光も。次第小消却して。出暗く。小寂寥小音。彌久。門を衝る。番士。さく。何れ
 仍けん。勢も。さく。こころ。これ。小下の討策小。さく。千余人。を二隊小。領ち。小陣
 を離して。埋伏を。敵進。来ら。ば。ら。し。り。廻る。左右。より。推助。て。言。院。う。ち

萬攻起す。いま。輝波。賀堂。の八百余人。小堀。尾。茂。助。と。案内。者。と。一。城。小。向。ら。て
 解。一。置。城。を。出。る。あ。ら。ば。直。地。小。城。一。籠。入。り。と。こ。こ。ら。の。羽。を。約。束。し。備。小
 の。池。田。と。昔。小。道。會。備。へ。率。派。陣。の。背。面。小。潛。伏。陣。の。内。小。枯。柴。燒。草。と。さく
 積。せ。音。号。次。音。小。火。地。燿。と。殘。る。隙。を。謀。合。を。結。ぶ。却。て。待。け。け。り。既。小。當
 後。も。實。の。刻。曉。天。近。く。あ。る。俣。小。守。山。の。城。中。小。種。村。大。藏。大。輔。と。板。之
 馬。助。光。等。分。の。來。り。し。と。二。百。余。人。異。志。同。進。表。地。と。と。歩。援。り。小。敵
 四百余人。の。留。り。て。城。を。守。と。指揮。を。傳。へ。唱。を。強。く。城。を。う。ち。奈。敵。陣。を
 推。進。り。情。子。を。走。り。念。強。く。抽。ら。せ。又。手。の。勢。を。果。せ。と。就。進。入。り。會。敵
 も。う。く。進。軍。陣。に。右。左。あり。二。百。余。人。異。志。同。進。表。地。と。と。歩。援。り。小。敵
 寧。と。し。て。人。を。も。あ。り。と。う。ち。も。う。ち。解。陣。し。し。と。強。く。と。意。を。さ。か。んと。城。小
 備。人。を。院。上。萬。威。を。傳。え。攻。り。し。り。が。野。口。遠。口。小。陣。を。難。を。懐。疑。さ。さ。く

旗を陣と通入せしむるや、旗を二面、人喚叫じ、本陣へ攻めんとす。
 水舟面より、号とあや、死を脱れぬとす。信小陣中、一勇小極
 火燃起、四方八面、燦々として出る。小諸をくへる小門あり。夜殿の面々不意に
 らしむるは、是れとたむらひ、焼く所、木下池田の三千余人、煙りの小く、周を揚
 島流せしむけ、怒潮のごとく小馳出たり。種村上坂肝を消し、退返せんとす。
 一なるは、背面小伏せしむる、秀吉信輝をえらひ、正魁小進を、逃行せしむる、彰截
 へあせしむせじと、攻めらるる。得の種村上坂も、途を失ふて、礼起、欺んせしむ、欺
 び小欺、まじしとの、種村上坂、速小一方を、破破り、城へ返りて、亦再び謀をえと
 おりとも、自告いさく、殿まの、焼く所、進退自由ありと、さるるや、と小敵いよく
 馳せたり。稲麻竹葦の、像くあまひ、種村上坂も、方術を死せしむ、いせん、惘然
 たるは、木下田より、声あり、桑汝、依約束を、違背せし、夜討せし、本陣の腹を

一、然ばこそ、あつらひ、天道是を、討するも、思ふまじく、不義の軍一と、提んと思ふ
 思ふ、さよ、全く、降りて、事無や、兎の、老を、視んとい、あひ、いさ、や、親の、い、ぬ、母、を、憐と
 へ、おも、た、ま、む、や、と、嗜、む、ら、ま、と、二、百、余、人、を、別、離、苦、み、む、さ、さ、と、顔、り、小、悲、し、く
 思、起、戦、せん、と、さ、る、軍、更、あ、ま、ま、種、村、大、勢、こ、も、と、見、ん、て、方、儀、の、道、を、譲、も
 る、い、さ、や、潔、く、戦、死、し、て、勇、士、の、書、を、残、さ、し、や、と、あ、ひ、お、つ、て、い、種、統、多、く、大、志、力
 未、揮、縦、横、を、破、小、進、の、捲、り、斬、り、ま、た、幾、く、軍、の、瞬、の、間、小、八、幡、旗、より、楯、拍
 ま、を、轉、竹、の、像、く、割、ら、る、あ、ま、の、腰、の、香、を、た、れ、さ、ま、と、戻、風、の、像、く、倒、れ、ま、る、
 隻、脚、抵、ま、し、横、甫、小、通、る、風、情、の、益、強、あ、る、事、の、解、小、も、あ、り、や、ま、る、と、さ、る、際、小、
 敵、十、餘、斬、倒、し、一、方、既、小、破、ま、ぬ、と、い、ら、れ、ら、る、種、村、の、ま、を、く、烈、し、く、斬
 起、て、強、援、ら、る、池、田、勝、之、介、信、輝、遠、小、こ、も、と、ん、ら、り、も、る、と、逃、せ、て、馳、ま、
 ら、る、大、音、あ、れ、し、と、會、は、る、傷、病、者、活、延、ん、と、違、く、も、我、依、小、背、身、を、目、を、さ、る



池田信輝
 勇烈にして
 種村大藏と
 毆捉る

之を連るるにせし罵罵種村眺と顔射大の眼と敵と時きの象武士の遊
 道まへや先種村かゝる練を見せんと櫛を毛小深く大太刀と騎面小
 散して周ひる小池田の所を陰術の達人あまは光をこ見し際小種村が
 ち刀と曼哩と排ひ落し若振らんとする如く大義平迷く勝之部
 陰の志不首撥投とさう併せんとあしる小を信羅とさす鎧柳弁
 と強併せを圓と組双方牛角の勇ままびのま方ら志棟合捨合傍負
 も更小見(さる)池田の節等行相守た勇胆志種村が強く馬の古
 肘と柄も徹と馬鞍と編小のトよりて揚る馬の死筆の像く突記
 揚り小丈藏もそ身を鞍小のらうねるに依りて撥と置置は池田も約
 て落掛り遂小種村とを布う大力刺挑の大義から後と節小方ん

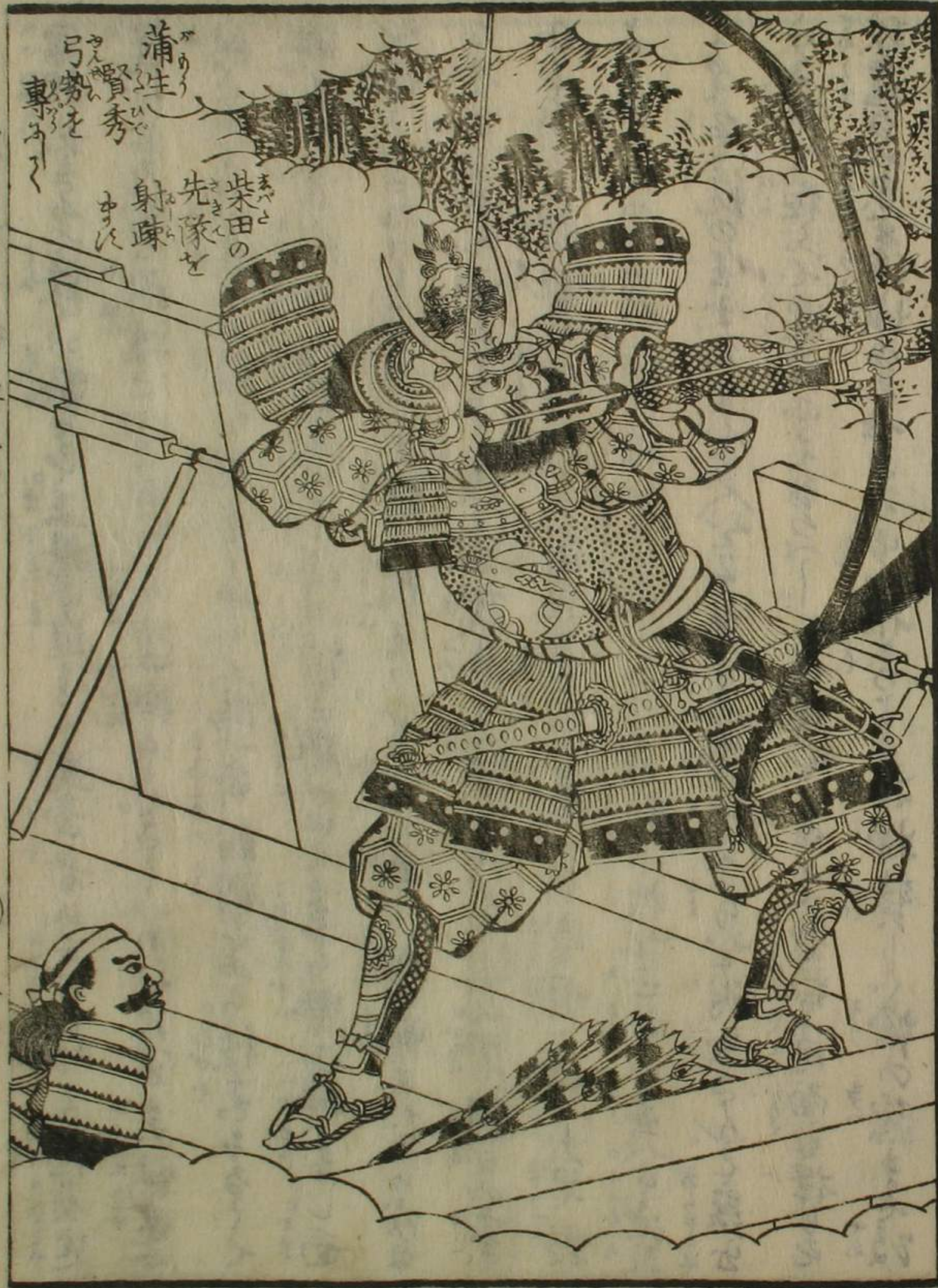
河空くとして敵まをり池田の種村が首撥吹ちり小費き勢揚てこそと
 着より引列人守山の城まをり種村大義と初をを敵取うと年をりう
 城ま都て懼怖首と頸をそと又き立種投地して降参と申小上坂只
 一個い小多く道まらん行来も知らむる失り儲又蜂次賀塔尾備
 の城ま初敵小出と後(まのびやう)小巡り出不意小城下(推)まをり二を
 小攻起りま小僅小残り一軍を軍まひも信らぬ事あるは信てこのミ
 防沖ふせと調然としてある事小熟る蜂次賀塔尾八百余人と
 一纏と一而も揮らむ吹く撥而時小城をまかて信なくと拵固め重妻
 時白をつきまらる小夜討のま士も返来らむ夜の曙くと曉まこ本小
 池田の西大将守山さうと推来まは蜂次賀塔尾こそと途へ城申へ
 請入る勝軍の事を賀し始く休息せらむと後吉山落城の始終を

鮮少泣伸ありはる。信長喜悦くはる。本下池田の捷と感ぜらる。律法らざりりや。

蒲生賢秀振勇勘柴田勢 属前田使節

水の形ハ谷の方圓小あり。水は色の谷の黒白小あり。名士の天下小はこと又勢の如き秋慈小日野の城を蒲生下野入道使節... 賢秀賢秀の首領なり。父子ハ方儀柴田権六将を云庫頭依之肉花助一万余騎とひけりけ。當城を平強く攻らるといども不得小名を云蒲生父子... 此も強く守るはく。炮支と花せく防戦を云小進之ハ負疾多くして。容易小城へ進ま得む。柴田勝家大小惣を。新計の樓城一つと一万余騎の軍勢にて臨得がは事やある。進めをめと指揮を云。名を云。放菟城際をく攻奪る。今這城小義を云小僅小八百余人

といども是を云一強當千を云大木大石と投菟く。遠と名途と拒抗... 進ももこま小ありせしと名統隙際あらせむと云二無之小攻着て表... ひいと進ん。响小城將右を蒲生賢秀の輩世の勇力ありて武藝も... 又絶倫なり。殊小術の番由基が秘方も傳つべき。強弓の精將ありたる... 又先一防と進之の如く冷しきと寨樓の上不起る。雁殺せ若... の差別なり。ゆくの矢と礮が下小山の像く堆重ぬ重藤のよ中... 振り進之小數人々大言揚げ。往日義平のハ孔小相馬小次郎將門と一... 敵の矢小射墜しと名と末代小輝せし。田原藤太秀綱の浪亂と一... 散代蒲生と知行せし。右名蒲生賢秀あり功は先祖小者とも云... の聲力の響かせし。青勝の嶽を受て試むるもよといふは五人張小... 十五束とふせ過るも云引候はが弓の満月の像くありしや。矢を云と云小



由良巨巴二編卷之十一



豊臣言二編卷之十一

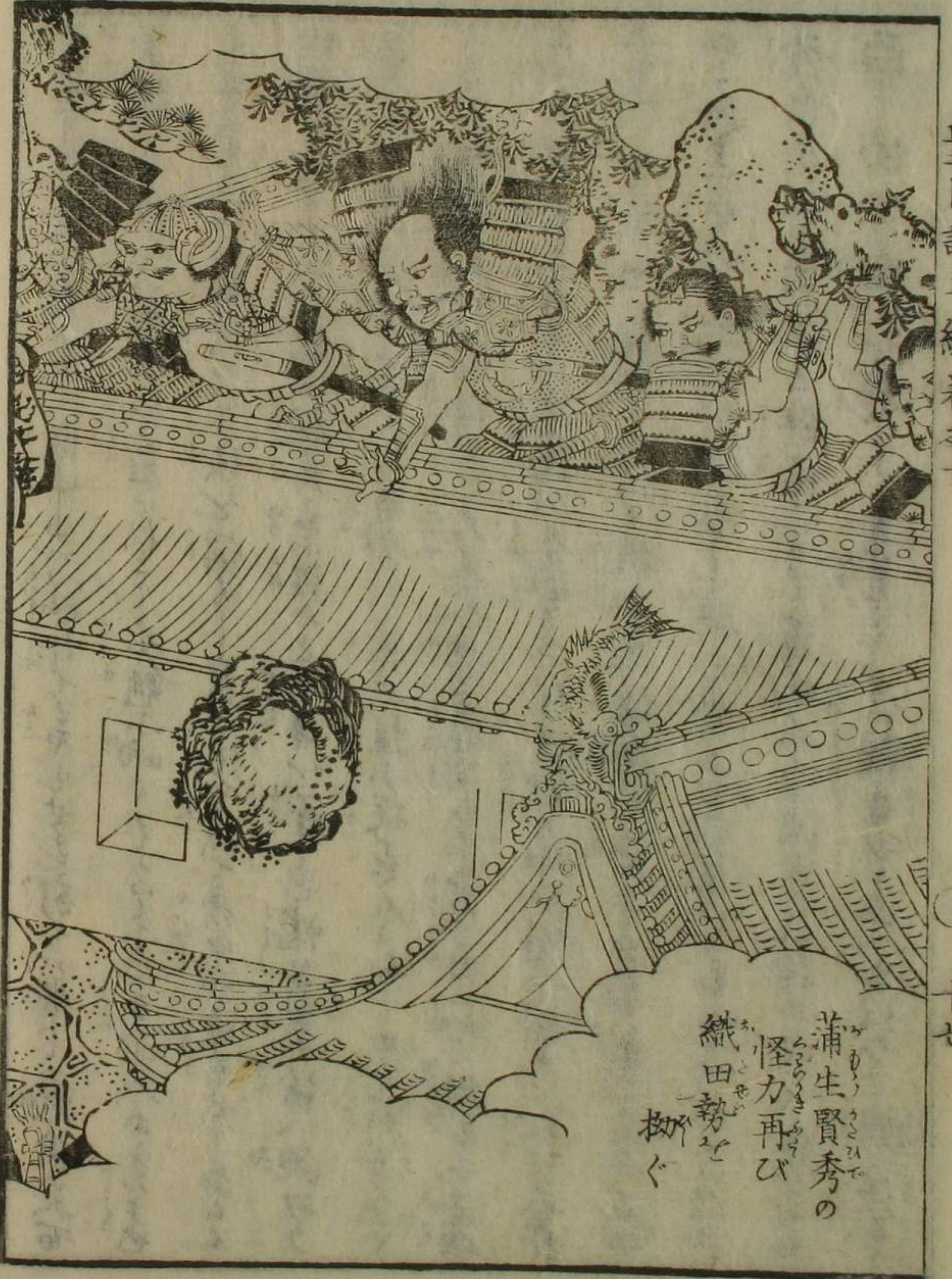
十一

漂毬地きりて放つる銃を正魁小進より馬武者の平目板より徳角迄
の筈を去るべくと射抜たり。こまを功の紐とてさしつめ射たつめ矢健速小
射より一矢小二銃を射貫くやら人馬一斉射倒すやら徳夫もあつて
瞬息小常瀬死人夥あらず得小将き勝家も遠手勢小群易し面
を向うるるまき。所へ小増る糧をうらと或い感へ或い憫またわらひぬ
小今天の日は西山とて傾く小健家も痛く瘧まへる軍の明日の事
小とて一と諸勢を纏ひては遠死當るの歳一守咽へ翌々天早朝
より柴田の二將楯の板をすま小とつらひ數十枚を正魁小並べを次
より多銃の玄士五百余人をさへさへ蒲生がらを射出さんと露出
るる不と胆ふて連放小をあらへる。その處を棄て惣勢一目面も揮りて
攻進るべ忽落城るべきぞ先推去ると指揮將大く。城の際まを改

着ることもいかりん城中の法印をもちもせむと射て果とと魁截の五百
余挺の多銃を一度小放蕪これをも本魁小向くむらも小と更小人あつても
も見へど儲の始終の空城を備をりめとを識て夜中不遠をせしめらん。
切斷す事やある。城小捉るを不投やと不許と運へと情を軍城へ跳りり
築地を傳ひ石垣のかりと遠登る先や城小捉る人とをくわく和とつんま
まて。俄頃小諸不の櫓より大木大石を透間り。電撃の如く拋出さる遠眺
蒲生賢秀の追軍の塞樓小を登り。今日の昨日小ひたりつ四五人拵の大石を
最極とと勢相と精力小任せ投出せば城際小着し玄士軍も此石小
擊ち拗まらず小死人の山をみし。疾く負ふりの員を知らず射ての攻に
於あらじいふ小せりやと評議しり。遠向木下池田の二將の守山城をせぬ
臨し。城の番士を嚴しく射置るも才の観音寺山へ出仕りし軍の次を



日向の戦



日向の戦

蒲生賢秀の
怪力再び
織田勢を
扱ぐ

七

と云はし。そのち。後日野の曉談を向小坂をまわく強うて。是後をのちと。初
 ぐ。と命せ小本下命せらる。蒲生父子が死せり。防衛の心も。官目易の意を
 つらまつ事難く。一。原素渠依父子の者。思慮も密や。小心中も憚り
 武士のま。始終の終城傳もぬ事。預く知べき。あり。然とも。勇士の意地を
 連軍と。一。作あらん。よく。道理を説諭さん。小心定將佐。一。こま
 小壁の障こそ。作ら。神守の。人刀孫の。蒲生父子との親。も中あり。秀の。妹と室
 具盛殿の。その外。小君は。神使と。一。流ら。密小。流ら。ひ。作ら。六。事
 ぐ。背き。重。と。勅め。ま。せ。る。に。より。信長。強。ふ。も。と。か。ぞ。一。ゆ。神。守。を
 人。と。せ。ら。ま。い。ふ。小。孫。人。足。下。の。室。家。の。蒲。生。の。息。女。と。云。然。る。親。の。死。時。あり。
 多。死。日。野。城。小。坂。う。ま。渠。依。父。子。を。説。破。と。公。方。の。將。佐。と。一。も。つ。ま。は。枝
 群。の。忠。功。あり。と。命。せ。ら。る。小。神。守。人。其。命。兼。知。つ。る。ま。つ。兵。預。く。の。殿。より。も。

別使と添ら。玉。と。玉。と。日。野。小。ま。り。向。ひ。新。公。方。家。の。神。使。小
 道理。と。勅。え。り。や。一。ま。定。め。異。儀。あり。ま。ま。し。と。の。命。信。長。強。ひ。こ。ひ。を
 別。使。の。誰。と。か。遣。え。と。と。言。ふ。响。若。田。孫。守。等。と。一。出。日。野。一
 ま。り。向。ひ。神。守。刀。孫。と。り。も。小。蒲。生。と。説。仕。せ。り。ま。ま。と。一。と。説。む。は。信
 長。所。し。ゆ。一。と。言。く。遠。遭。日。野。の。使。節。の。勇。猛。の。士。を。頼。む。小。あ。ら。む。唯。辨
 古。と。專。と。一。と。蒲。生。父。子。の。心。と。や。ら。ば。公。方。の。所。使。小。遣。一。と。言。き。大。切。の
 使者。小。と。尋。常。の。こと。小。あ。ら。む。と。一。方。誠。小。渠。依。父。子。と。説。諭。と。一。と。言。ひ
 真。中。り。や。い。ふ。と。訊。さ。せ。玉。と。と。小。下。秀。吉。心。中。小。遠。遭。の。使者。の。若。田。等。と。一
 思。ひ。も。猶。も。英。氣。と。懸。し。ま。ん。と。如。ゆ。さ。る。君。は。神。使。の。こと。と。蒲。生。と。一
 勇。の。名。さ。り。使者。の。詞。と。難。せ。ら。ま。と。一。是。下。一。個。の。秘。傳。小。あ。ら。む。と。一。と。言。ひ
 道理。を。説。諭。て。渠。未。依。親。子。を。腹。を。つ。れ。と。尋。小。利。守。等。と。一。と。切。吉。等。と。

揮ふ小既置たる。小長使常小まうう向ひ。武威を威さど。君命を存すめど。
 只又道なきとて。東総一信ちんの。多言の亦て過あり。道を奉むる
 蕭生とて。取ら小足らざる。愚人小して。帰伏さすとも。女をうると。粟と
 小本下撲他と。堂を拍すも。ここの。蕭生と。父子と。うらむ。説得せし。つべ
 う。遠使者。このこと。前田の外。小首尾。頼ふ。律ある。うらむ。だ。彼。あ。と
 勃ゆ。信長小も。こま小回。さ。あ。ち。前田を。神戶と。借小日野の。城
 中。當向玉ふ。本中別。と。前田を。招ぎ。密意を。母さ。あ。う。ま。は。使供
 僕を。四五人。連甲。胃。税。兵。糧。積。少。雄々。然。と。出行。う。ま。當。日。回。月
 十日。早。中。利。心。と。柴田。の。陣。小。志。く。ま。勝。守。頼。小。信。長。の。命。を
 頼々。東。漢。日。野。の。攻。口。を。是。れ。還。ぶ。を。然。て。友。使。城。中。小。引。り。若。人
 城門。小。守。中。内。遠。遭。新。公。方。家。の。使。節。と。て。神。戶。若。人。具。登。係。長。う

の使者とて。前田孫。河。利。家。系。向。せ。り。その。むね。城。を。と。言。當。る。小。婦。子
 右。兵。衛。と。ま。と。所。く。神。戶。の。國。司。北。畠。と。ま。ま。る。る。右。義。の。侍。と。あり。前。田。の。儀
 田。の。使。士。と。あ。ま。こ。ま。偶。と。も。あ。る。う。ら。ん。人。古。小。道。遠。せ。と。い。ふ。と。入。道
 要。時。と。推。止。神。戶。の。不。義。と。い。ふ。い。ど。も。新。公。方。家。の。使。節。と。ま。ま。尋。常
 の。儀。本。と。同。く。う。ら。ん。若。田。も。敵。の。使。節。と。う。ら。兩。陣。の。際。小。使。節。の。禮。あ。ら。せ。し。小
 逆。遣。と。ら。ん。小。軍。の。儀。を。お。ら。ぬ。小。儀。と。う。い。ふ。も。若。小。招。寄。と。ま。漢。説。の。う。ら。ん
 所。て。返。辭。の。隱。據。意。多。う。ま。ま。う。う。人。命。と。ま。ま。う。う。右。義。清。也。と。ま。ま
 小。も。と。同。く。神。戶。の。使。と。迎。へ。り。神。戶。若。田。の。案。内。小。透。を。若。小。登。り。し。う。ら
 蕭。生。と。ま。ま。出。迎。ひ。軌。則。力。と。く。對。面。と。ま。小。若。人。童。と。ま。ま。う。う。遠。遭
 新。公。方。家。義。昭。若。神。母。堂。兄。若。の。死。心。敵。と。ま。ま。好。松。水。と。ま。ま。せん。こ。め
 小。も。ま。ま。を。神。出。陣。と。ま。ま。若。蕭。生。の。教。代。の。田。家。や。と。ま。武。勇。も。ま。ま。く

園へつら申小松く賢秀の勇猛絶倫すること久しく上園小達しつゝ臣
 子方の心とまゝ忠臣同意の分と願ひ名譽を天下小譽らまじつゝ
 の功ありと言察する响右田利家席を進めて蒲生小対ひらして信長も
 新公方家江沖催但小使ひ領國の軍等と引率して河上清小信奉は
 河上清の諸次當國小う作は遠長興力の旗と退治し河道を固んぬ
 日野(軍)軍と向はる夫の道は是非を催致さざら新公方家より當城
 上使を遣はし是下使と河上をせまらぬ信長も小松の合戦を以て不備
 多し我軍を投げて速小柳當再興せらるゝ大功を達せぬ人軍も人の況を
 極う多しと重瀧も下野入道懇く思慮して小使小使ひつ不届の乃又子輝
 と何となく上園小達せしやらん思慮致こと小松も奉らるゝ河陣へ臨上
 意小松の面目こそ小過を致して速小柳奉のやと能る事とも我軍代々

依り本家の諸下とて録多の不領を安途をえしつゝ公方の御恩も小角家
 の親も勝方を輝らし慈小依り本家當面へ信長の為小居謀れ夫ひ是
 急お亡の秋小至りて多糸の親ととも棄て新公方家の河陣願ひ乃又一人
 同公せが誰らう海指を當ざらんや方信信長小攻詰らるる勝敗の事も屬さ
 るらも親意と遠方の事とて軍を止めぬらん釋懐痛至極といふも
 最極かく催は俺們又子ひつゝも身の名亡せ依り本家とい等しふせんと
 おひ截りて遠由河被流るゝ事とて又子諸とも小重と申を若人奉意あり
 面色小て若田孫四郎小うも向ひ又子の心危新ある上は別小をむし頼も方
 然らば奈なく出城して遠近言と公方家へ言付せしと起揚は若田蒲
 生と既しつゝふゝさ夫道と釋は城の忠義を知らぬ事小は信も蓋
 ありふもと城つゝもらんこと小度と起んをせらる响右衛賢秀人小思ひ



前田
 真理
 説
 蒲生
 父子
 織田家
 帰せ



之兼所らんと謂小利家成果せんと一膳席と進めて重さ、然らざる信
 長より乃弟と使者小遣せしむ。使新公方家の所領小随ひ怒敵退治
 小加らざるを是天通小應ぶるあらむ。逆小背て順小面し捨も人通小
 あらざるや。この小下野入道も常と拍て大小能び遠よのれせう。程縁のこ
 づき使新陣頭へ参上し。織田殿のふ配小従ひ使宜とせし。角家の新
 絶せざらん事を料理が派小ある全と謂つて。然も方儀又も信とも向未
 せんもゆかり。賢秀と稱へ使小歩伴とせく。久如上とせん。城中これ小
 深定なり。右左衛門守賢秀一子鶴千代。今歳十と侍ふて。神谷常田小
 同道せらる。親善寺小来りたる。前田利家河原小出日野の始終と
 言吐せしむ。信長大小款收あり。次小右左衛門將千代と早く如丸へ逆
 宮將と奪ふて。對面せらる。遠遣是下使速小彰公方家の所領小

從ひ臨く。參陣せし。縁成を悦むれ玉らん。信長も人慶こまふ。こま
 ち縁故の果が先祖將軍自盛是下の先祖秀綱親長。と心せし。小して相馬の
 將門と縁對せし。吉例あり。逆居之好松永と。征伐せん事易く。べし。
 と懇小宣ひ出。厥況將千代。亦小勝ま。益量ありと。慶賀せらる。信長
 の娘は聲とく。多々契約あり。將千代は華て忠と前とありせらる。一様あらむ
 款待玉。小右左衛門守賢秀。源く。親比。小様。大將。水。先。此。人。の。為。小。心。き。忠。心。
 獨して大功也。達多んのめと。念深強小情のく。思入。こ。り。なる。
 前田利家草名又左衛門。属。江。列。勅。座。
 梅花香中。小笑。ふ。も。能。番。色。を。括。む。と。縁。あり。然。る。前。田。孫。田。利。家。を。
 蒲生。又。子。を。親。果。せ。速。終。小。降。参。さ。せ。し。沿。小。方。儀。は。南。せ。守。と。こ。の。長。
 光寺。草。津。あり。と。決。も。守。城。備。ふ。多。じ。と。會。く。城。せ。う。ち。棄。て。山。林。深。谷。小

牙と祿とをまきかためぬ水と隔てし。西を江守治山。豊田。そは外の城。小
 瀬守てあまつ。個々もて。鐵田の藩。下小陣。衆とて。久。六。南の。相城。十八。箇。不
 と所へも。終。之。百。が。そ。隙。小。一。頭。も。残。ら。ざ。る。去。て。江。南。は。西。一。時。小。平。均
 せし。小。より。信。長。の。感。賞。漢。々。ら。む。に。別。形。を。神。速。小。將。佐。と。あ。り。つ。る
 中。の。一。般。苦。作。和。田。山。と。一。日。小。改。播。日。野。の。藩。生。と。説。破。せし。こ。き。を
 の。功。不。傳。く。あり。但。其。作。和。田。山。の。功。は。後。日。小。行。ふ。べし。先。條。田。部。の。勲。功。を
 褒。賞。せんと。命。あり。て。常。田。利。家。と。召。出。さ。る。海。を。使。節。と。を。巨。崎。初。め。の
 始。賞。未。だ。を。懐。ひ。一。緡。の。功。を。小。功。と。違。へ。る。不。思。議。さ。よ。然。も。平。日。の。繁
 寡。く。敵。軍。を。性。質。小。轉。容。る。遠。道。の。答。答。方。丈。不。當。小。て。ま。ま。こ
 そ。の。七。し。の。百。千。不。敵。費。と。る。小。あ。り。余。り。あ。る。是。より。孫。也。而。と。尊。て
 又。た。弟。と。号。ふ。く。且。惣。領。と。指。さ。す。と。て。常。田。利。家。と。相。續。せし。む。

北陸七國を小利家。金尾。田。部。人。利。久。の。父。健。康。助。利。勝。の。建。治。と。後。に。尾。列。亮。子。と。成。せ。り。然。と。も
 一方。の。名。將。と。す。り。の。小。あ。ら。し。と。て。永。祿。十。一。年。信。長。の。命。小。より。利。久。の。石。原。と。利。家。小。將。を。弟。と。あ。せ
 る。と。す。り。新。て。江。南。懸。く。改。從。て。今。已。京。都。の。通。路。用。ら。る。六。早。達。新。方
 家。義。昭。公。と。近。所。一。ま。あ。ら。せ。奉。ら。ん。と。不。破。河。内。と。と。河。途。と。て。濃。河
 西。の。庄。立。正。寺。小。名。向。さ。せ。江。別。軍。の。次。有。ら。し。上。流。の。事。と。言。は。せ。し。い。新
 公。方。家。所。一。め。さ。を。悦。む。を。玉。ふ。釋。限。ら。る。夫。小。も。騰。る。新。意。味。小。て。同。月
 十。有。一。日。新。旅。館。立。正。寺。と。新。發。駕。ま。り。く。長。岡。大。館。二。箇。上。野。行。舟
 細。川。和。田。藩。の。伺。を。遠。せ。所。借。小。百。具。せ。ら。し。廿。二。日。の。未。小。至。こ。ら。に。別。守
 山。小。名。所。あ。る。是。の。信。長。禪。と。り。本。小。秀。吉。小。命。屬。ら。む。候。の。新。意。味。小。と
 中。山。城。小。設。置。せ。し。釋。ら。る。本。小。丹。羽。五。人。の。城。智。川。ま。を。新。出。途。を。し
 ま。め。ら。せ。ま。す。信。長。の。親。善。寺。より。守。山。へ。新。出。小。ま。り。城。新。意。味。と。結。ぶ。又
 奉。り。新。月。見。あ。り。て。言。は。せ。ら。る。江。別。勢。の。と。く。平。均。の。う。へ。新。上。流。を。や



織田の大軍
上洛の中途
三井寺
宿陣の
圖

遠くらすと新院と重なる小新公方命出さるや。信長懇志の志
 功といひ思ひを双の義勇といひ柳營再興の計畧ハ偏小を方々申小
 あり。感悦斜あらざりしと新院の申討ありし信長謹て言はせり。
 是と申も將軍家所為の雲の如儀あり。且ハ新公方家所為心の
 多きを小して。信長の軍功を修む。是より後日とも又君の所成光と願小
 載さし諸士小武勇を勅せむ。と最濃なる意濃次小蒲生賢秀こと。
 家系とりし武勇と意濃小持母も軍小推新謁見命許らる。是
 と推奉り。はま小頼小賢秀と召出さる。新院の謀意ある小園蒲生也
 園才小余り新院のやを退出さる。後隆泰の諸將達追々新謁見命
 させらる。本願安途の御朱印を賜り。諸下之神社佛圖就所修繕
 と停止せり。六百石安途のありしと。かく。斯て信長廿二日。親音寺と

出馬あり。湖水を西へ歩法。勢田小止宿。廿五日之井寺極樂院よりて
 本陣とせらる。諸軍勢ハ大津四宮。朱雀野。山科。醍醐。うら。宇治の
 各小陣隊も。陣と布さる。本願小頼。賢秀。其を顯せり。

徳本豊臣勲功記二編卷之拾 傳

書目言二編卷之十

安政五年戊午五月出版

編輯者東京 櫻澤堂山

畫工 同 一勇齋國芳

大阪書林

出版人 岡田茂兵衛

同

東區博勞町四丁目

同 松村九兵衛

東京書林

南區心齋橋筋一丁目

發賣人 山中兵衛

芝區三島町

